

い せ も の が た り え さ っ し  
伊勢物語絵冊子

紙本著色 綴葉装 松井文庫所蔵

縦 14.6 cm 横 17.6 cm 江戸時代

『伊勢物語』は、平安時代に作られた歌物語で、作者、成立年代は不明です。ある男性の生涯を、恋物語を中心として描いたもので、実在した歌人で、平安時代の美男子の代表といわれる

ありわらのなりひら  
在原業平(825～80)を主人公にしているといわれます。

現存本は、「むかし、をとこ、うひかうぶりして」の初冠(元服の儀式)で始まる初段から、辞世の歌「つひにゆく道とはかねてきゝしかど、きのふ今日とは思はざりしを」の最終段まで、125の章段からなります。各段の冒頭は、多く「むかし、男ありけり」ではじまります。

この冊子は、伊勢物語125段のうち、代表的な45場面ことばがきの詞書と和歌、および挿絵さしえを描いたもので、詞書も主だった部分のみが記されており、伊勢物語のダイジェスト版とも呼べる内容です。

面白いのは、文字が画面の中にバランスよく配置されている点で、絵や文字と余白のバランスが各ページとも絶妙です。中には和歌の部分を絵の内容に合わせて配置しているページもあり(例えば第8段東下りあずまくだは和歌の部分が「山」の形、第23段筒井筒つついづつは「井」の形になっています)、軽妙で楽しい一冊となっています。



第8段東下り 「山」

「信濃なる浅間の嶽にたつ煙をちこち人の見やはとがめぬ」



第23段筒井筒 「井」

「筒井つの井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見るざまに」